



御宇田みや
Miya Miuta

白い船が

近付いてくる

静かで穏やかな

深く青い海を

感じさせて

ゆったりとした

鼓動に乗り

予感のやさしく
やわらかい波に
導かれて

ここにいられる今を

この出会いを

すべて思い残すことのないように

今日が始まりの日

—
白い船

目次

	白い船	3
I	海に見える部屋	10
	鏡の顔	12
	窓辺へ	14
	海へ	16
II	空の向こうへ	20
III	子供の顔	22
	川	24
IV	向こう岸へ	26
	木造の小屋	28
V	赤いチューリップ	32
	赤い色彩	32
VI	黒いチューリップ	36
	悲日	37
VII	青いチューリップ	40
	青	41
VIII	黄色いチューリップ	44
	光の葉	44
IX	白いチューリップ	48
X	元の海へ	52
	部屋へ	54
	翌朝	56
	海	57

海のプラネタリウム



海の見える部屋

文房具屋で

心惹かれる海青色マリングリーンの装丁のノートを見つけた
手にした時から気に入っている
青く透き通った柄えのペンと共に
海の見える部屋へ持ち込んだ

この白い壁の部屋の東側には

紅くれないの薄様うすように

生き生きと梢こずえを延ばした

錦帯花ハコネウツギが天井まで描かれ

入口の斜向はすむかいにある

南の窓から射し入る光に

鮮やかに照らし出されていた

鏡の顔

背もたれのある白い椅子に座り

顔を上げれば

錦帯花ハコネウツギの葉のような

横に長い広楕円形こうだえんけいの机の鏡が

先端を五枚に広げて咲く花々の

梢こずえと共に顔を映し出す

『こうして一人でいると　よりはっきりと感じてくる

ここに来る前までの自分の心の世界がまやかかしくみだったこと

本当の世界じゃなく

うその世界に生きていたような気がして落ち着かなかった

これまで自分が生きていた世界は

ああしなきやいけない
こうしなきやいけない
と思いながら焦あせってる

本当の安らぎには欠けた世界

囚われたような思いを抱えながら生きていくのは嫌なのに
払ふっしょく拭出来ていない記憶が望んでもいないのに見え隠れして
望んでいる本来の心で生きることが邪魔したりする

もつと心の中に引き寄せたい

心の奥底から共鳴出来る世界を

きつと望めば出来るはず

ずっと来てみたかったここへ来たのは

心新たに未来の世界を本来の「今」にするため」

立ち読みページはここで終わります。

お立ち寄りありがとうございました。

またのご利用をお待ちしております。



新風舎
立ち読み横丁